

評価の 基盤的視点	公衆衛生看護学会の理念、および本学会で作成した「公衆衛生看護のグランドデザイン」に対応していること				※「公衆衛生看護のグランドデザイン」において示されている公衆衛生看護の目標 / 目標達成のための役割 1 所属するコミュニティで生涯を通じて 1 人ひとりが健康づくりに貢献できるようにする / コミュニティにおける健康の総括責任者になる 2 社会的孤立者をゼロにする / 健康課題をいち早くキャッチし、かつセーフティネットを機能させ最後の砦になる 3 地域の保健医療福祉を発展させる / 地域の保健医療福祉システムの創成を担う 4 世界の公衆衛生看護に寄与する / 公衆衛生看護のベストプラクティスを国際的に発信し、世界規模の健康問題の解決に貢献する				
	公衆衛生看護上の活動意義		活動の先見性・オリジナリティ		活動の成果		活動の発展性・将来性		活動の波及効果
評価視点	評価指標	評価視点	評価指標	評価視点	評価指標	評価視点	評価指標	評価視点	評価指標
●活動の目的、対象、方法	・活動の目的、対象が明確であるか。	●社会的要請の観点(新しい課題への着目)	・実践内容が今後の社会的要請(先を見通した課題)に応えるものか。	●評価の構成要素 【構造】【過程】【アウトプット】【アウトカム】のいずれかまたは複数が表現されているか	・【構造】職場内実施体制、予算、住民・関係者や他機関との協働・連携体制、社会資源の活用など	●他の地域への汎用性	・実践手法や体制に汎用性があるか。特殊な体制・希少な組織による実践であっても広く活用できる可能性があるか。	●活動を他地域に広げるの取り組み(成果の公表)	・活動の波及をめざして成果を公表しているか。
	・活動目的を達成するための方法がとられているか。		・社会的要請に応えるため、活動計画(目標設定、活動内容)が明確であるか。		【過程】企画(活動テーマ、目的、方法等が他者にわかりやすく表現されているか)、実施方法、活動への取り組み姿勢、住民・対象者の参加		●他の領域・課題への応用可能性		・実践内容が他の課題や対象にも応用可能であるか。
●活動の根拠	・活動の根拠となる課題やニーズが明確であるか。	●実践内容、手法の観点(新たな手法への挑戦)	・実践内容、手法にオリジナリティ(新規性)があるか。	●活動成果の評価視点の適切性、具体性	【アウトプット(事業実施量)】実施回数、参加者数・割合など	●活動の改善(質向上)の可能性	・フィールドの規模や背景が違っていても、類似した活動につながったり示唆を与えたりするものであるか。	●活動の波及実績	・公表(学会発表や論文・報告書)によって、専門家や実践家から評価や助言を受ける機会を得ているか。
	※課題や活動テーマがこれまで言い尽くされているものであっても、内容や手法にオリジナリティ(新規性)があるか。		【アウトカム(成果)】目的・目標の達成状況		●活動の継続可能性		・実践内容は次の実践へと継続的に展開しているか。		・活動の評価を踏まえ、活動改善に向けた課題が明示されているか。
●評価の公正さ			・活動の目的、目標に即した成果の評価視点が設定されているか。	●評価の公正さ	・活動成果の評価視点が具体的に示されているか。	●活動の波及可能性	・実践内容は将来も持続可能であるか。		・実践内容は国内外の活動の参考になるものか。
			・活動成果の評価視点が具体的に示されているか。		・評価が公正に行われているか。		・住民・組織等による客観的評価がされているか。	・評価結果が明確に示されているか。	